

地方大概集

十四

内閣文庫			
函架	冊	號	類
八二	一五	三二七九	和書



内閣文庫	
番號	和 32279
冊數	15 (14)
函號	182 173

史一。



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

地方大概六二集卷之三

目錄

除堤仕立方之事

丁張の圖

摺附原附高置の圖

菅羽の圖

箱堀の圖

如所枕箱目論見方并圖

同去儀ノ切目論見方并圖

川除諸普請之事

卷之三

石出沉杵并圖

杵出墜杵九尺杵并奉

蛇竈出并圖

大竈出并圖

土出屏風返并圖

管羽口出積り方并圖

杭出杭筋根杭并圖

笈牛并圖

大聖牛并圖

柳牛并圖

尺小垣積り方并圖

尺小牛積り方并圖

菱牛之奉

立竹之奉

石積之奉

石垣積り方

仕立をせられが有り

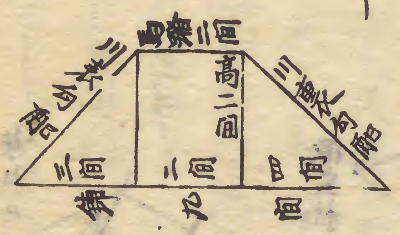
堤の勾配を大凡川表七寸五分勾配、川裏五寸勾配をせよ。川表曲尺勾配川裏七寸五分勾配は、所々有り、小川を以て今ゆへ勾配急すと云ふ所あり、石堤が、川表五寸勾配川裏四寸勾配、上、大走りを付する、都く堤築立、終るまで、古法を奉る。

堤の根エ、川瀬付く、欠崩す時、川表の下を堤あり、四五尺堀崩、萱羽口、築立、萱を付せ、川表の堤の根エ、地籠を立、逆へ籠附、若石竹不自由の所を、間接籠、籠の間を、籠尺、竹、石斗付置あり、又萱竹一切不自由を、乱杭を打、其杭を、石斗附く、石腹

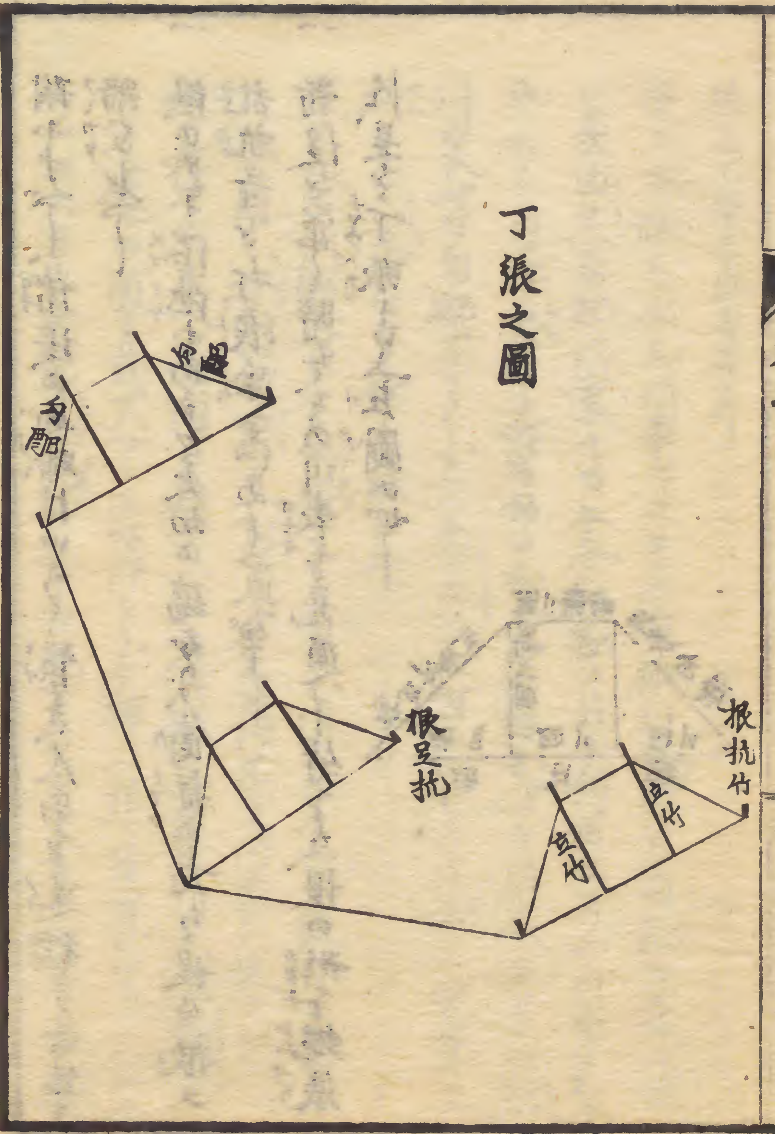
附おす、諸堤の馬踏は、籠き、人馬を通行せ、能と踏登せ。

一 堤の内、沼池、大切の場あり、箇掃の所を、堤の根エ、乱杭等、打、浪除き、置。

一 新堤を築く時、川の表を見通し、竹を立、堤の形を、縄張、尺、是を、丁張、と云、左圖の如し。

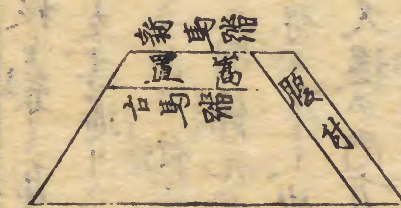
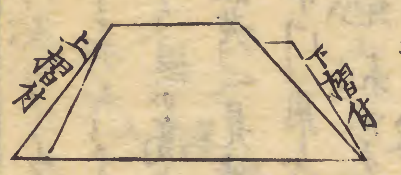


丁張之圖



古く通河原より中田地添へて堤を築く所より川表を見
 通し曲り所を以て目當篠竹を立其通り水漕門間敷
 を量りて堤の高き古堤の比よりこれに倣ひ又地形の高
 低を中能考へ見積るゝ馬蹄二間鋪九間高二間の堤
 は小川中川用を在在大川を保ちて一借堤を築き附
 るる小口絶たぬ様附くべし又堤の両方の腹に柳を指
 し篠竹をも植ふる事あり大なる竹木を採り且川幅狭
 き所を川表の方竹木を植ふるに洪水を前水を抱へ
 川上の堤を切所小出来いふんをのち
 細き堤を腹付く所腹に土を附し堤を厚くし低き
 堤を高く置く土を置高くし又堤の勾配延過なるを

左圖の如く、下摺附を〜〜大まきりをするなり、又堤の勾配
 急なると上摺附を〜下、都く堤普清を春の内まで下、芝
 の根付も早く、草生寄り堤の高〜古堤は竹竿有る腹
 付年難き時を結合〜土を付下、代取〜拈たす竹の
 根拈〜堤の弱〜もするなり



一 堤の崩れを、穴の通るを春の内不修復せ、夏秋中堤の
裏を普清しな

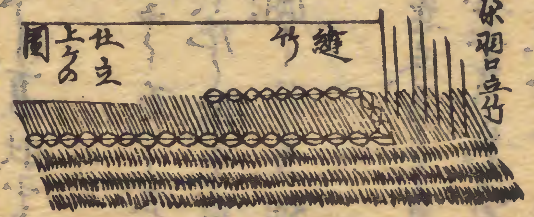
一 土取場も堤の裏より取、川表の方より取、且堤前
取、堤根より拾間も拾五間も去、た〜堀〜取、
川表も土取場おけ、堤の内二十間も満〜は〜畑を〜を
取、耕地の減お好様專〜取

一 砂地〜近所直土を〜先所〜毎立其上も真土〜
厚さ尺余の包〜芝を付下、亦近傍も直土を〜石籠〜
前後も包む下、籠の差渡〜壹尺七八寸位、長〜二間〜中
三間〜適宜作り、中の石を適合堅〜詰込〜平め

也

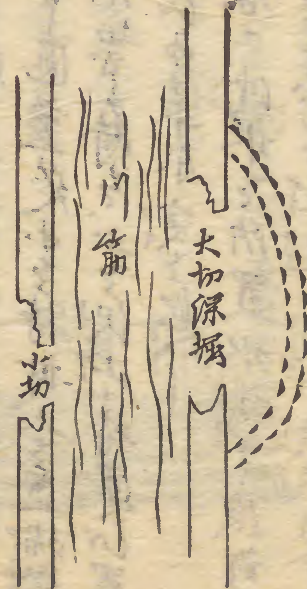
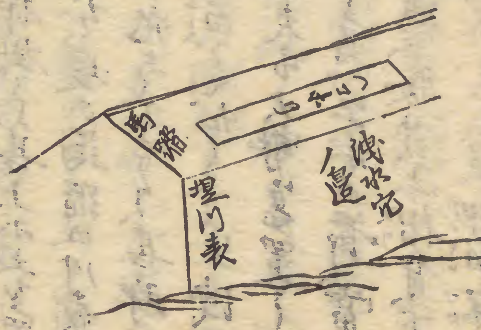
一 堤を築く、管の厚く三四寸を並べ九竹を切尖し、
 壹間、六本づつ二通り、下圖の如く、其を並べ竹を折曲げ、
 縫合し、縫やうを本飛び、
 組違ひを順く、組送り間毎、横
 子の組を縫合し、其上小土を薄く
 置き踏堅め、又管を厚三四寸
 の布並べ、竹を縫合段、小築
 立、下圖の如く、土を置仕立る、

此堤関東筋、
 但羽口堤の勾配を曲尺勾配
 中吹きなり



一 洪水の前堤は洩水する、川裏より防ぎ、川表の堤根を
 築き、探さず、穴の邊に當せ、必洩水濁出、其取置庭芝
 小持掛、其上小土を置、穴を塞ぐ、右より穴知が、
 時々、堤の馬踏の川表より、左圖の如く、箱掘は、時々、
 水穴を、其時右、通管庭芝、小持掛、土を、上踏堅め、
 防、加、洩水知が、時々、土を、穴、小持運、置、
 人夫、大勢、集置、ひ、小、穴、突、込、
 右、通、出水の前、當分の洩水、を、防置、水、高、後、前、件
 の、通、不、腹、付、上、摺、付、下、摺、付、小、其、景、況、隨、ひ、於、後、下、
 滴水、を、堤、押、切、深、掘、を、時、直、小、築、立、を、難、れ、れ、
 左、圖、の、如、く、兩、方、を、切、口、を、幾、輪、の、形、小、堤、を、築、追、て、終

埋立の上下



一 埋立所築立る時を、両方の小口を崩し、土の取付を融け下

一 埋立所水深は、下埋より土俵より埋立内外の切口、抗
より、柵を掻き左圓の如く、埋の地形を繕築立、目論
見方亦大概左通

一 埋立所長五十間、馬躰九尺、平均高七尺二寸、

此土俵百七拾五坪

同下埋長三拾間、平均深六尺、横三間半、

此土俵百五坪

二、土俵敷百八十坪

人足百四十人

是より、土俵取壹町壹坪三人掛二百八十坪合

一堤切所長五十間前後水中抗每
枕水三百貳本

是切所前後延長百間之間送り四本寺

内 百五十壹本 長二間 水深一分根入五尺

百五十壹本 長九尺 水淺一分根入五尺

唐竹千二百四十九本半 目通二三寸廻り

是延長百間之水深平均柵高五尺半坪八三坪五合分

但平壹坪拾五本宛

人是六拾四人五合

内

三十七人八分 二間抗打

但一人四本打百五十一本分

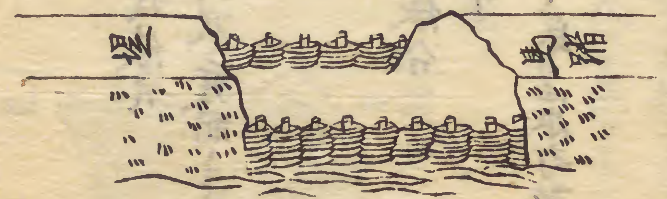
拾人 九尺抗打

但一人十五本打百五十一本分

拾六人七分 柵搔

但一人平五坪撥八三坪三合分

堤切竹抗柵之圖



一 堤切所長三十間、水深土俵ノ切

右入用

明俵二千百六十俵

但四斗入俵棧俵在

是七土俵ノ切長二十間、水深在高一六尺、亦間三俵結

六重六通ナホリノ百八俵ノ二十間分

繩七百二十ナホリ席

但二十尋ヒロ曲

是七卷席ノ三俵結ハ二千百六十俵合

抗水百二十二本

長二間末口四寸

是七切土俵前後延長四十間分、間ニ送り取打根入五尺

人足二百四人四分

内

七十二人

土俵持卷人三十俵ノ二千百六十俵分

百八人

土俵土取道法一町持運入二十俵ノ

二千百六十俵分

二十四人四分

抗打卷人五本打百二大本

堤切所土俵ノ切の圖

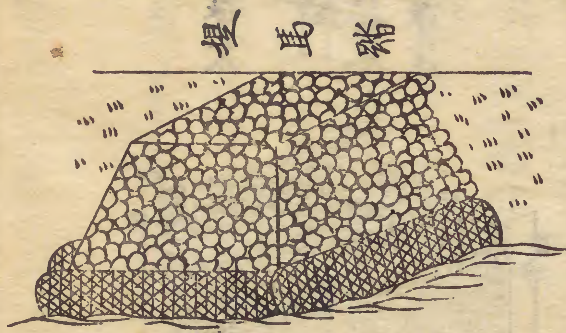


川除諸普請之事
一 石敷

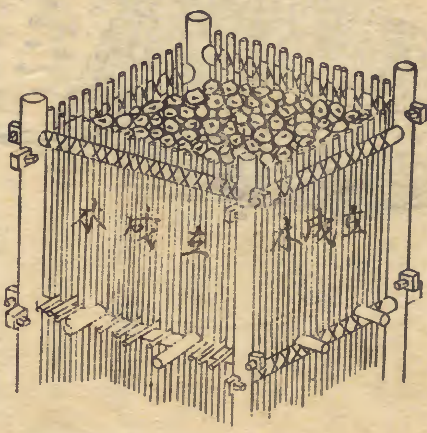
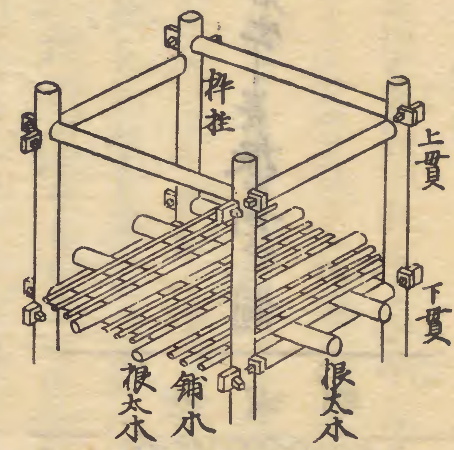
是石川の荒川仕立水あり、石を敷き保方宜くは、左
圖の如く大石を敷く仕立、石積方を法五分の物を敷くは、
三分法よりゆき、水中より積上を鼻より兩股根を敷く
一、大河より水勢強き所を巻籠り、蛇籠り石を
一を敷くは、包む事あり、且又場所深きを、下圖の如く沉
舟を入、格別深きを、二つ重敷く、舟を大槪高壘間、
横二間四方位を敷くは、石敷の大を應じ、見出し仕立、
地形舟を敷くは、鋪より外、二尺より廣く敷くは、石を
崩す事あり、此の中長を、其川の畧況より大小の舟を

勿論舟根より川中直小水より、流水を導く保方宜く、
且川上水を抱き破損早きを、川下方に斜に敷く

石敷根籠之圖



沉桿之圖



桿高五尺方二間水品寸間大之人呈子卷之四諸桿表
見合也

桿出

一是十堤久所前又水解中仕立三川除あり甲川川々多く
用大大概石安一似打物やり、流石に成丈大石を用桿根
掘り所を蛇籠を月表に随合地形を掘居下、谷川の
水當強き所用して利益多し仕立方常の桿日操る、
木品寸間連ふ近あり、右大石を入る付鋪床を丈夫区
一、且又ノ切小口を中々續桿を用上下、岸圍を多分片
桿を用、卷の二橋臺の以外、竿九尺桿、撥作、島居桿、小の各目
有り、水品寸間卷之四諸桿表を見よ

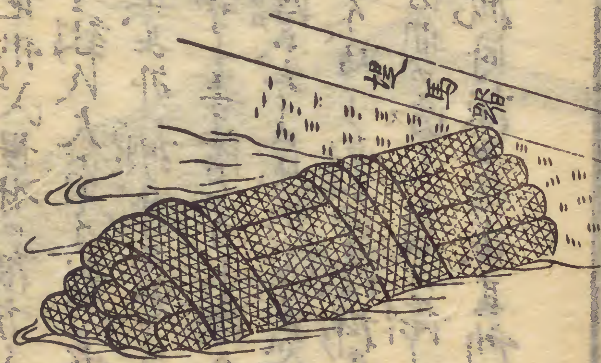
蛇籠出

一是于石川砂川の水利あり地形平坦なるを直貫間籠二繼不

一 三継りの中其所應仕立平一又地形不平多きを平均
 筋二間筋三間筋其場所随ひ大取定地形を平し
 其上小筋出仕立平至深場を以て地形筋二間
 の大筋より三間筋三間筋を獲て並に上出仕立平一
 筋川底深浅應二筋三筋の重なる下平の筋一
 一 出仕深平又七寸筋壹本並に地形筋二間半一筋出
 一 筋より中筋より下段取附の處横に筋本筋を襟筋より
 継手二筋より筋帯筋より筋筋より是出の大小より差
 渡二尺筋一尺五寸筋の差一尺五寸筋一尺五寸筋也
 但下地石積土中守り一巻筋はまは事あり川々
 の大小水勢の險難より仕立方異なり

筋出の圖

一 出の白筋を長十間位
 二 割余交り長き出
 一 割余を川上向く出
 一 割余を川下向く出



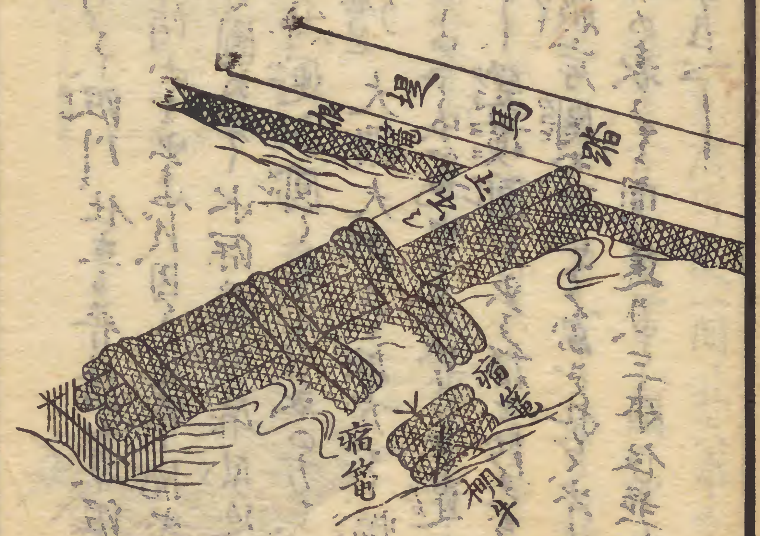
大筋出

一 是駿州富士川中宿川遠州大井川仕立水外右月大

河に水勢強く一通りを備出さるる保ちて、長三三間あり猶
 其所より何程も長く出んち水に逆らぬ様川下の方斜に仕
 立る丈出たり仕立方を既岸を地形に提付の根方と土出と
 根竈を矢夫、門、先を爪中と致し、大出と横長三三間
 水清前圍痛出三四所仕立、其外柳牛も出、其間敷
 應、二所か掛、至く大造を普清より、水深の所を既
 岸を懸く組立川上より水中、浮ぬ出、地形を処懸置
 岸柱を密竹を結付、石を打廻り、陸と違ひ、續岸を成
 水中、一組に入、組岸と岸との間の透く所を落、竈あり
 合、下、水、川、仕立、由、大、概、同、様、を、れ、由、其、所、の、仕、素、に
 ち、お、究、異、同、あり

大箭出の圖

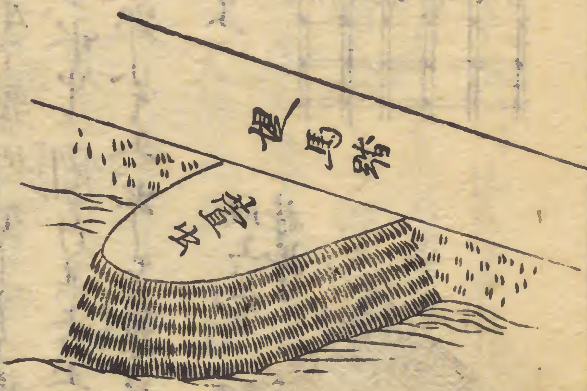
地管并諸の法
 卷之四詳多



卷之四

地管

萱羽口積方



萱羽口折廻長二十五間

此澤

長二十三間

平均深六尺

以坪三十四坪五合

埋坪

長二十九間

平均高一丈六尺
横一丈三尺

以坪百四十四坪四合

内六十四坪二合

長二十五間
高一丈五尺
横六尺

二合百七十八坪九合

右入用

山道三百七十九束半

但五尺繩二入夕

是于埋坪一坪付十一束宛三十四坪五合分

野萱三百七十九束四分

但右同敷

是より羽二坪付七束下辛四坪二合分

葉唐竹二千九拾九本

目通三寸廻り

内

千四百九本下埋一坪付四本下辛四坪五合分
六百五十本下埋一坪付土本下辛四坪二合分

同竹四百十本

目通三寸廻り

是より繫竹埋一坪付十二本下辛三十四坪五合分

葉直竹一千百十九本

目通二寸廻り

内

千三十五本 埋一坪付三十本下辛三十四坪五合分
千八十四本 羽二坪付二十本下辛三十四坪二合分

繩六十九房

二十尋曲

是より埋一坪付折掛萱結の二房下辛四坪五合分
八是より二百九十三人三分
是より取三町一坪七人掛 但仕立百七十八坪九合分

杭出 乱杭より

一 是より匠砂川角より水引石川根入中 保堂一仕立方
左圖の如く横の並びは五六本より三四本迄長十間送り四
本より五の目より打り、水逆の如く根川下の方斜打針巻
竹を壁横に打つ、又末口一尺巾の如く大杭根入添き、針
巻掛の如く、或は小川等より根出の如く、間送り
三四本下辛斜打根筋を撥水引又より岸圍ははら

幸の何らあり

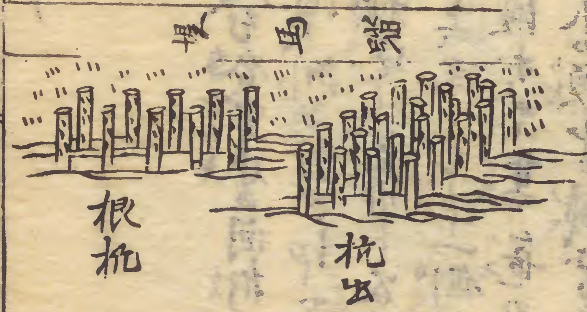
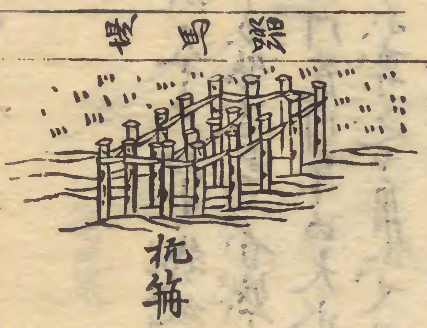
但針巻、挾掛より去、杭の頭を両方より唐竹を挾、
拾竹を結付をとり

鎖掛より去、圖の如く、唐竹を四割り、杭より杭互
違ひ、鎖の中より揚付、拾竹の端を直竹を巻置

りあり

一 杭間より去、長六七尺位の小杭間送り三本、根入二尺程
打込、葉唐竹より杭より組違、箱を撥、高三三尺又四尺
さくの水當り、應じ仕立をとり、用水堀岸圍の毎、長四尺
尺の小杭、高高二尺程、唐竹を二割り、撥下、又小川
舟より杭間より去、幸の何らあり

一 根杭並杭より去、是を堤切所、外岸圍、用ふ圖の如く、間小
送り三四本、岸の方附く、打立、水當り、強き所を
二通り、三通り、由打屋



根杭

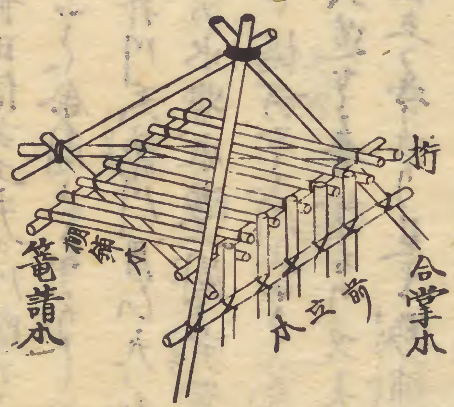
杭出

右抗打人足定法卷之四ノ詳あり

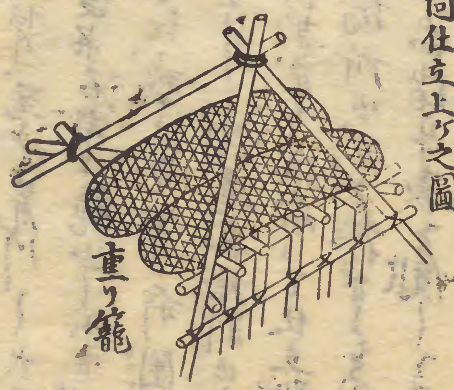
笈牝

一是より水引又ハ切水、幾組中繫入ハ合掌水の間桁水の下
 水道よりハ能居止ル自然ハ利溜ノ所を付シ切水多ク
 さいト大川荒川等ハ大水ニシテ押込一益ハ谷川山
 欠留キハ專之ハ角ハ又用水堰上ニ至ルハ一側ハ水
 堰兼テ時々二側中入ルハ又假堰ホモ重リ籠の代リ
 土俵を用テハ勿論土俵ハ合掌水の頭中載ルハ重リ
 ますハ右水品の間并大ニ人足子ハ卷之四諸牛表を合
 摺ルハズ

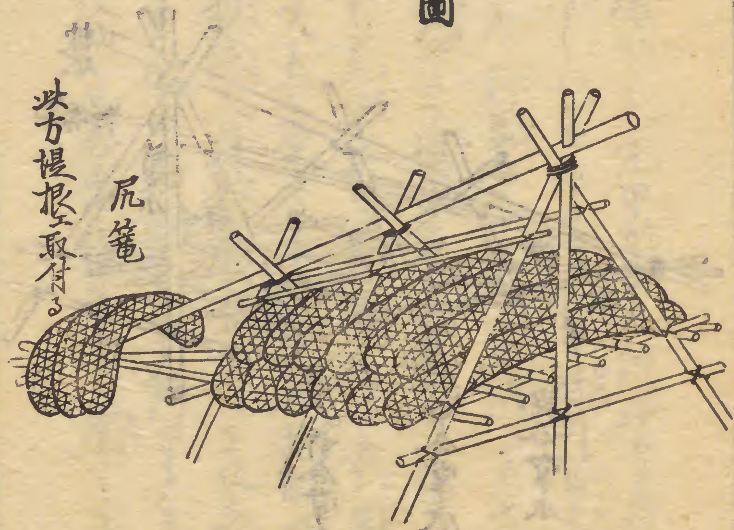
笈牛指方之圖



同仕立上之圖



大聖牛仕立上之圖



尻籠

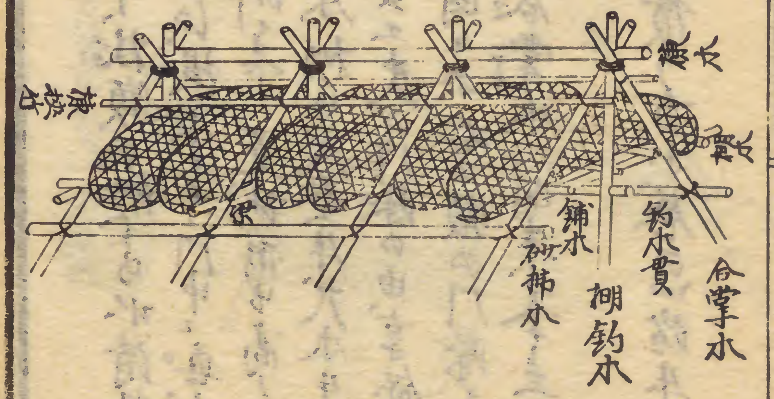
此方堤根取付

棚牛

一是十洲川石川、用子川除り、枝瀬本瀬より水清り、
 下と破損早し、他の水剣と違ひ、堤根より川中、真直ハ
 扱ふ、結保つ時、川鋪埋り、洲を下置、地形も高くあり、
 自然、瀬筋川向、變り、元原棚牛、大聖牛、尺水牛、棚水
 牛、菱牛、尺水垣、小水、武田信玄工夫の川除の由、享保以前
 今余國おちり、今も國々、右の類の川除を仕
 立、今も有りたり、水深の所、合掌小二間半、又も三間半
 一、棚を高く結立、

但右入用、水品寸間、堵式積り方、小巻の四堵牛表、
 詳あり

湖牛の圖



尺水垣

一 是に至る小川用水堰同様の所は、又所水何を以て用ひ、又石門に杭根入り、杭毎仕立、事々所用、筆壺水通り置、杭を打て、後石を結ぶ、横竹二通り、川上方に拾竹を、結付、杭毎の丈夫を、極あり

右積方

一 尺水垣壹組

長五間

右入用

雜水十六本

長六尺水口二寸五分

杭水

是之間、原承送り長五間分

唐竹八本七分

目通一寸廻

内 五小 横手竹上下二通り合但二間遣下

三小七分 拾錯竹間七分五厘ワ五間分

人足壹人七分

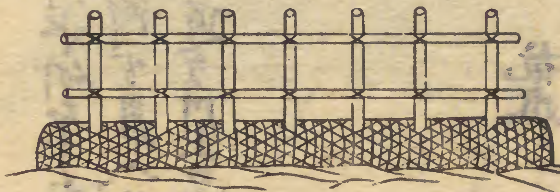
是ヲ杭打拾竹拵結立ナ

一人長三間ワ五間分

蛇籠壹小

長五間差渡一尺七寸

尺水垣之圖



尺水牛

一 是ヲ谷川小川ノ棚牛葎牛葎牛小の大道長ノ仕立ニ
キ漏所ノ用ヲ小川除ク能水也例ヲ附大ノ利益也
大門ノ用也

右積方

長拾間

一 尺水牛壹組 右入用

雜水三十壹小 長八尺末口二寸五分 合掌水

是十一間間送り四組立三十一組合但二ツ切

同拾壹小 長一丈二尺末足身分 通水

是十一間間送り三ツ切拾間分

唐竹四拾本半 目通寸廻

五本 棟竹

内 拾本 棟椽竹

拾本 釣縁竹

尺本半圖

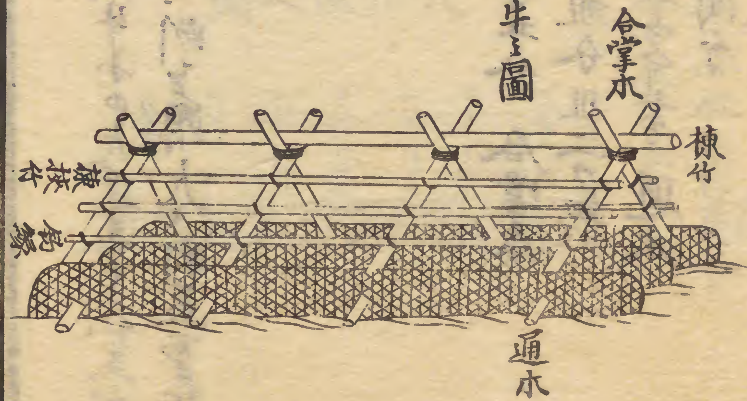
拾本半 拾竹

合掌一組付本

人足拾人 壹間き人宛

蛇籠六本 長五間差渡一尺寸

是三本並拾間分



菱牛

一 是より大聖牛棚牛をいふも、大造より又笈牛といふも、
 中水より打返一保事多所用一守圍を繋ぎ菱牛
 幾組ゆいしを至るも、大川より小川まで宜鋪普
 請あり、形も笈牛を四角にまじりて繋ぎしもの之入用
 木品諸式小巻之四諸牛表を合を見よ

立竹

一 是より前件より他は根杭の内の方より壹間二本位杭を糸、
 葉唐竹を垣の椽より立上下二ヶ所横に押縁を當杭小
 結付川除又岸欠廻時地面より杭毎に保ち

なすま場所の川除あり

但海迎の浪除に用ゑる立竹は、五六寸廻り、葉唐竹の元の方を切夫一平壹坪、三寸高五本り、其の目も立藪の操しく、浪除に用ゑる川に仕立る立竹も仕立方大違ふ事あり

石積

一是より河原又と岸根の堤の中、川形長く積立るあり、向論慢と違ひ、法もや、三十間又と五十間も積置、大水の際水溢る岸崩之き、乃ち用ゑ水例と

石垣

一是より川筋海岸大切な場所、乱杭おとく保る事あり、所は或は船入波が場中仕立る普請あり、裏込石も水當の強弱により増減あり、下は栗石を三分程遣ふ所あり、又所により松栗を以、幅一尺余厚一尺以上の土臺水を入、其土臺の前後、杭小間送り、三小程打堅め、其上より積立る事あり、何れも石垣も石代石工手間小、尋分相掛り、間敷小長けを、大造を、入用、緊要の場所、湛せざる、容易に築き、事あり

右積方

一 小口平坪と石坪を積ア

- 一 石面一尺四方より一尺寸四方位の石平一坪に三十六踏の
より二十五位の積り
- 一 扣^{ヒカ}寺尺守より二尺七寸位迄石面大小應下積り
- 一 裏込石口平一坪付二三合程但六尺六面坪の積り
- 一 石又小口平一坪三人より四人掛
- 一 手傳人且右同内二人五分より三人掛り
但古石垣小口石を以復^{シユク}の前より石又小口一坪二
人より三人迄手傳人且新規同内積り

右の外川除普清の名称、國々何々あり種々あり之は其の
甚大綱を擧ぐ其概畧を記載し、猶目論見方の規即

諸式計算の法方小を次の巻を閲し其大概を予解
次面々々



地方大概第一集卷之三

